



# 探究が本格始動

今後の探究活動  
沢高タイム始まる

青森県立三沢高等学校  
**2 学年通信**

Vol.02  
令和2年5月19日発行  
文責：池崎

昨年の12月からスタートした探究活動ですが、これまでに、探究に協力してくれる人に関わったり、探究に関連する書籍を読んだりしてきました。さらには、探究する課題を深めるために、「問い⇒仮説⇒検証⇒考察」を繰り返してきたと思います。その中で、自分が本当に探究したいことは見つかったでしょうか？

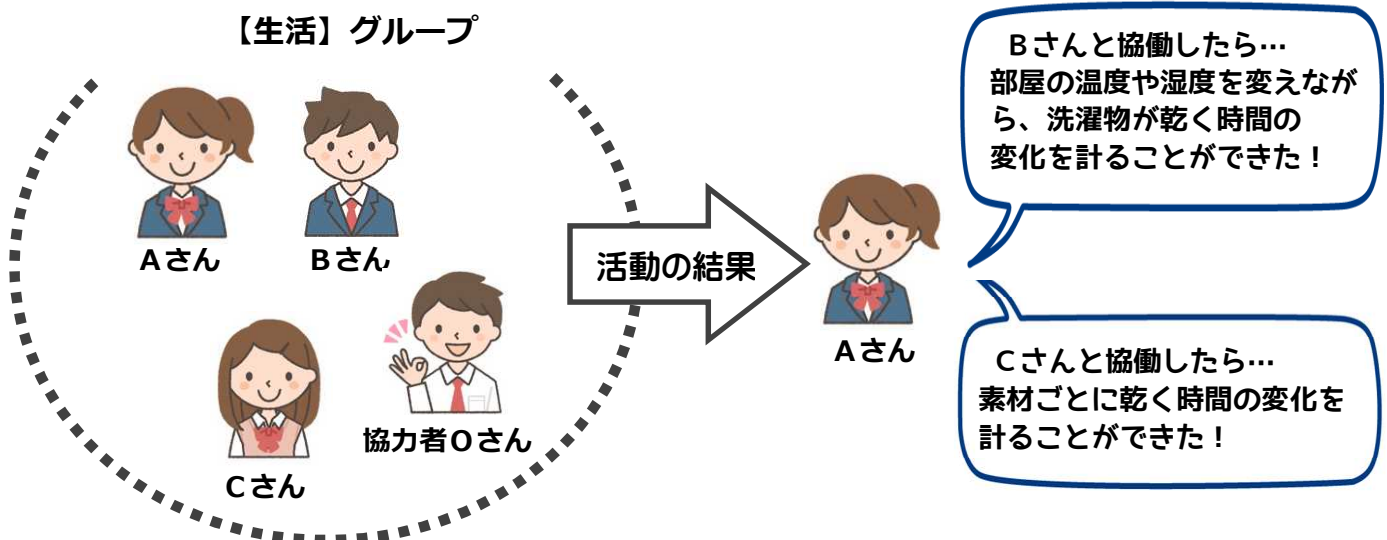
いよいよこれから探究活動が本格的に始まります。興味のある分野において、誰もやったことがない探究を進めてほしいと思います。これからの活動をイメージ化してお伝えします！

## ■ 今後の探究活動はこのような感じです

①各自の探究課題が決まりました。



②同じ分野の課題でグループを作り、協働して活動します。



※このような協働活動により、自分の探究活動の幅が広がることが期待されます。

③自分の探究課題について、発表する。

※同じ課題で協働するのではなく、自分の課題を持ちながら協働していきましょう。

## ■ 「沢高タイム」が始まりました

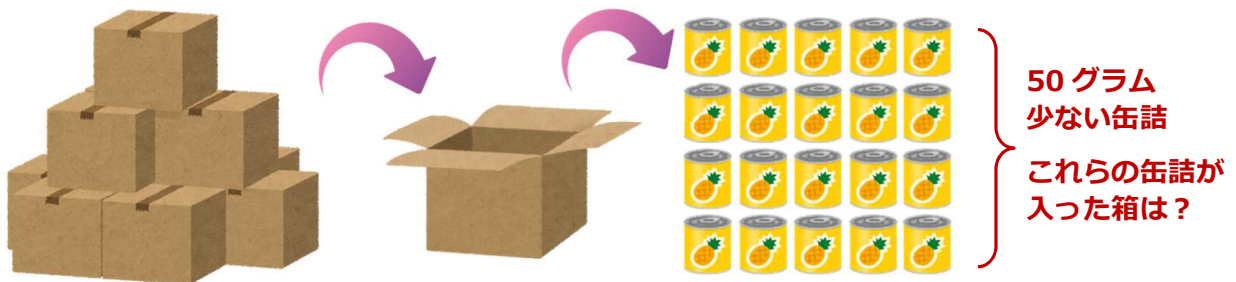
前回の通信でお伝えした通り、火・水・金の「沢高タイム」は「読解力」向上の取り組みです。  
第1回目はどうでしたか？ 大切なポイントを振り返ってみましょう。

- ① 読解力とは？ = その文章で何が言いたいのかを読み取る力
- ② 読解力の基礎 = 「主語と述語」を正しく読み取ること
- ③ 読解力の向上 = 「〇〇字要約」の練習が大切
- ④ 読解力以外にも、想像力や発想力、協働する力が求められている。

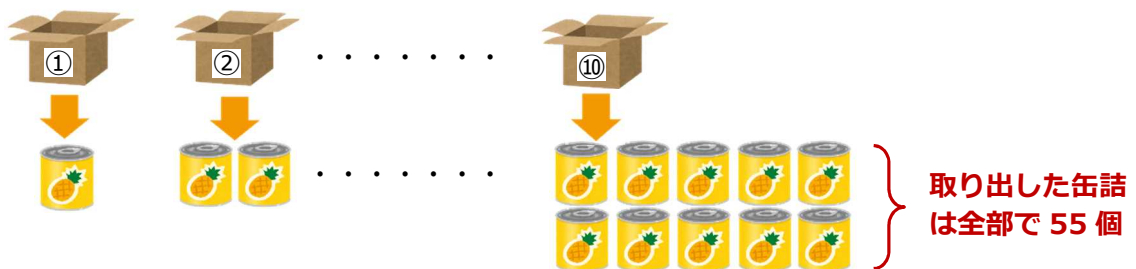
※ここで、多くのクラスで解説できなかった「番外編 第2問」について解説します。

【出典：『頭の体操』多湖 輝 著】

【問題】 パイナップルの缶詰が 20 個入った箱が 10 箱ある。缶詰 1 個が 800 グラムである。  
しかし、いずれかの箱の缶詰が 1 個につき 50 グラム少ないとのこと。  
秤（はかり）を使えるのは 1 回限り。さて中身の足りない缶詰の箱を発見するにはどうする？



【解説】 箱に①～⑩まで番号をふり、「①の箱から 1 個」、「②の箱から 2 個」というように、箱の番号の数だけ箱から缶詰を取り出す。



取り出した 55 個の缶詰について、中身が問題ない場合の総重量は、  
 $1 \text{ 個 } 800\text{g} \times 55 \text{ 個} = 44,000\text{g}$

この総重量から、実際の総重量を差引く。それを 50g で割ると、中身が少ない缶詰の個数が出てくるので、この数の番号の箱が答えとなる。

【例】 55 個の缶詰の実際の総重量が 43,800g だった場合、

$$(44,000\text{g} - 43,800\text{g}) \div 50\text{g} = 4$$

したがって、この場合は④の箱の缶詰が、中身の足りないものであると分かる。

第2回目は、「旅行プラン」を考える内容です。自分が持っている知識をフル活用して考えることが大切です。「人に喜んでもらうプラン」であることを忘れずに取り組みましょう！